

7. あんず

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	I Cボルドー4 1 2	散布	-	-	
3	アンビルフロアブル	散布	収穫7日前まで	2回以内	
M2	イオウフロアブル	散布	発病前～発病初期 ^{注4)}	-	
3	インダーフロアブル	散布	収穫21日前まで	2回以内	
BM2	エコショット	散布	収穫前日まで	-	
31	スターナ水和剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	小粒核果類 (すももを除く)
2	スミレックス水和剤	散布	収穫14日前まで	3回以内	
M3	(チウラム) チオノックフロアブル トレノックスフロアブル	散布	収穫21日前まで	3回以内	
1	トップジンM水和剤	散布	収穫21日前まで	3回以内	小粒核果類
7	フルーツセイバー	散布	収穫前日まで	3回以内	小粒核果類
41	マイコシールド	散布	収穫14日前まで	2回以内	
-	マスタピース水和剤	散布	収穫前日まで	-	小粒核果類
3	マネージDF	散布	収穫7日前まで	2回以内	
2	ロブラール水和剤	散布	収穫3日前まで	3回以内	

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	アドマイヤーフロアブル	散布	収穫7日前まで (但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内	
16	アプロードフロアブル	散布	収穫30日前まで	1回	
1	ガットキラー乳剤	樹幹部及び主枝に散布	休眠期(落葉後～萌芽前)	1回	小粒核果類 (うめ、すももを除く)
9	コルト顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	3回以内	小粒核果類
28	サムコルフロアブル10	散布	収穫3日前まで	3回以内	
3	スカウトフロアブル	散布	収穫14日前まで	1回	小粒核果類 (うめ、すももを除く)
4	ダントツ水溶剤	散布	収穫3日前まで	3回以内	
4	バリアード顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	2回以内	小粒核果類 (うめ、すももを除く)
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫前日まで	3回以内	小粒核果類 (うめ、すももを除く)
28	ヨーバルフロアブル	散布	収穫前日まで	2回以内	小粒核果類(すももを除く)
3	ロビンフッド	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内	果樹類(かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、すもも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴーを除く)
UN	石灰硫黄合剤	散布	発芽前	-	落葉果樹

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注4) 登録会社により使用時期が異なるので、登録内容を確認して使用する。

品種や気象条件により収穫時期が異なるので、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意する。
 農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。

病虫害名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
かいよう病	開花前 ・ 9月中旬 ～10月	1. ICボルドー412の30倍液を散布する。	1. 発生の多い園では開花前と9月中旬～10月の両時期に散布する。 2. 秋期防除では9月中旬頃から2週間間隔で2～3回散布する。
	落花期 ～収穫前	1. チウラムフロアブル（チオノック、トレノックス）500倍液、エコショット、スターナ水和剤の1,000倍液、マイコシールド1,500倍液、マスタピース水和剤2,000倍液のいずれかを散布する。	1. チオノック、トレノックスは、果実に汚れを生じる場合があるので注意する。 2. エコショット、マスタピースは微生物農薬である。予防効果が主体なので発病前～発病初期の使用を心がける。 3. マイコシールドは高温時の散布によって、葉にクロロシス（黄化現象）を生じる場合がある。
灰星病（花腐れ）	開花直前	1. ロブラール水和剤、スミレックス水和剤の1,500倍液のいずれかを散布する。	1. 耐性菌の出現防止のため同一系統薬剤の連用はしない。FRACコード2のスミレックスとロブラール、FRACコード3のアンビル、インダー、マネージは同一系統である。
灰星病（果実）	6月上旬 ～ 収穫前	1. 発病果は見つけ次第除去して土中に埋める。 2. アンビルフロアブルの1,000倍液、ロブラール水和剤、スミレックス水和剤、フルーツセイバーの1,500倍液、マネージDFの2,000倍液、インダーフロアブルの5,000倍液のいずれかを、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意して2～3回ローテーション散布する。	
黒星病	4月下旬 ～ 5月下旬	1. イオウフロアブル500倍液を散布する。	1. イオウフロアブルは高温時（28℃以上）の散布では薬害を生じることがあるので注意する。また、日本なし、ぶどうなどには葉やけなどの薬害を生じるおそれがあるので、かからないようにする。
黒粒枝枯病	4月～6月	1. 被害枝を切除し焼却する。	
	8月～9月	1. トップジンM水和剤1,500倍液を散布する。	

病虫害名	防除時期	防除方法	注意事項
カイガラムシ類	発芽前	1. 石灰硫黄合剤 10 倍液を散布する。	1. 石灰硫黄合剤は皮膚に刺激があるので注意する。
ウメシロカイガラムシ	第 2 世代幼虫出現期 (7 月中下旬、但し収穫後)	1. アプロードフロアブル 1,000 倍液を散布する。	
アブラムシ類	4 月～5 月上旬	1. スカウトフロアブルの 2,000 倍液、コルト顆粒水和剤、ダントツ水溶剤、バリアード顆粒水和剤、モスピラン顆粒水溶剤の 4,000 倍液、アドマイヤーフロアブル 5,000 倍液のいずれかを散布する。	1. スカウトは蚕毒と魚毒に特に注意する。アドマイヤー、ダントツ、バリアード、モスピランは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 2. アドマイヤーの使用時期は、露地栽培については発芽期から開花期を除く。
コスカシバ	休眠期	1. ガットキラー乳剤 100 倍液を樹幹部及び主枝にいていねいに散布する。	1. 石灰硫黄合剤とは混用しない。
	5 月	1. ロビンフッドのノズルを樹幹・樹枝の食入孔に差し込み噴射する。処理は、食入孔の虫糞及び樹脂を取り除き、粗皮を軽く削り、食入孔の方向を確認して行う。処理後も虫糞が認められる場合は、使用回数に注意して再度処理する。	1. ロビンフッドの使用回数及び使用上の注意は、りんごの項の総括注意 13. ①を参照。 2. ロビンフッドは、蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
ケムシ類	4 月～7 月 (収穫前)	1. サムコルフロアブル 10 の 2,500 倍液、ヨーバルフロアブルの 5,000 倍液を散布する。	1. サムコル、ヨーバルは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。

【総括注意】

1. チオノック、トレノックスは蚕毒が強いので注意する。
2. チオノック、トレノックス、ボルドー(硫酸銅)は魚毒が強いので注意する。
3. コルト、サムコルは水産動物(特に甲殻類)に影響が強いので注意する。